



はじめの
一歩

家族で目指す一般就労

就労応援ガイドブック

Start Working Guidebook

群馬県

index

はじめに

このガイドブックは、主に特別支援学校高等部に入学したばかりのお子さんがある保護者の方を対象にしています。

近年、一般企業が障害者を積極的に雇い入れようとする動きや気運が高まっています。

また、障害者が働ける領域は、着実に広がっています。

さらに、一般企業で働いている障害者の数は、全国的に年々、増加しています。

お子さんが一般企業に就職し、生き生きと働いていくためにはどうしたらよいでしょうか。

もちろん、本人が、目的意識を持って学校や施設で行われる教育訓練に取り組み、しっかりと準備していくことが重要です。

しかし、それ以上に大切なことは、普段の生活の送り方であり、家族の支えであるとも言われています。

こうしたことを踏まえ、このガイドブックは、障害を持つ方が一般企業で働くこと、すなわち「一般就労」のために必要となる資質や能力を、お子さんにどのように身に付けさせていったら良いか、そして、それを家族としてどのように支えていったら良いか、ということをテーマにしています。

生き生きと働く、それは、誰にとっても大変重要な目標です。

お子さんの可能性を信じ、共にこの目標に向かって歩み出そうとしている家族の皆さんにとって、このガイドブックが少しでも頼れる道案内になれば幸いです。

《働く》ということー学校卒業後に働くことについて考える

《働く》意味は.....	2
学校卒業後の働き方.....	4
どのような仕事(業種)があるの?.....	6
どんなところで働いているの?.....	8
保護者(家庭)が気を付けるべきポイント.....	10

実習について

社会に出る準備.....	14
実習についてよくあるQ&A.....	16

働く先輩・保護者・先生からのメッセージ

実際に就職した先輩から.....	18
保護者から.....	20
先生から.....	22

働き続けるために

支援機関からのメッセージ.....	24
働き続けるためによくあるQ&A.....	26
支援機関紹介.....	28



《働く》の意味は

学校を卒業したら・・・

お子さんが学校を卒業すると、進路先はそれぞれ違いますが、その後何をするかを選ぶことになります。
「働きたい」という気持ちがある場合、「一般就労」または「福祉的就労」を選びます。

会社などで働く「一般就労」

働くことが中心の生活です。

福祉サービス事業所で働く「福祉的就労」

事業所のスタッフと一緒に、またはお手伝いをしてもらいながら働きます。しかし、すぐにはどちらにも決められないので、決まるまでの間、とりあえず家にいるということもあるでしょう。その場合は、相談支援事業所の相談員など専門の人に相談しながら、今後のことを決めていきます。そして、働くための訓練を始めたりします。

どのような進路を選ぶにしても、学校や家庭などでいろいろな勉強や経験したことを生かして社会に出て行きます。

働く理由は・・・

多くの方は、大人になると働きますが、なぜ働くのか、その意味を考えてみます。

給料をもらう

ご飯を食べたり、服を買ったり、生活に必要なものを買います。CDや雑誌など欲しいものを買ったり、映画や遊園地に行ったりして楽しめます。生活をしていくには、どうしてもお金が必要です。

達成感や責任感、自信が身に付く

できなかったことがだんだんできるようになっていきます。仕事ができるようになってくると、いろいろな仕事を任せられるようになります。働くことによって、他の人の役に立つことができます。がんばって仕事をしていると「やればできる!」という気持ちが生れます。「やればできる!」という気持ちは、働くときだけではなく、普段の生活の役に立ちます。

規則正しい生活ができる

毎日きちんと起きて働くと、体調が良くなります。体調が良いと、毎日笑顔で生活できます。

人との関係

いろいろな人と知り合いになれます。一緒に楽しい時間を過ごせます。何か困った時には、助けてくれます。

ただ、お金をもらうための理由で働くものではありません。働くことでたくさんのことを学び、人として成長していきます。そうすることで、生きていく楽しさや、充実感などが得られます。

働くときは・・・

さらに、働く意味をもう少し考えてみます。会社にも、学校の時と同じように規則(ルール)があります。

働く時間

会社によって始まる時間や終わる時間は違いますが、1日に4時間から8時間くらい働きます。土曜日や日曜日が休みの会社もあれば、平日が休みの会社もあります。

「みんな一緒」と「みんな違う」

会社の中では、いろいろな人がいろいろな仕事をしています。みんながそれぞれ違う役割をもって働いています。会社で働くということは、会社のルールを守るということです。働くことは厳しさもあり、つらいこともあります。我慢しないとイケないこともあります。

生きていくには、様々なルールを守っていかないとイケないので、働くことで、その習慣が身につきます。

「働く」ということは

社会には、働くためのたくさんの会社があります。それぞれの会社は、私たちの暮らしに必要な仕事をしています。お米や野菜、お菓子などの食べ物、シャツやズボンなどの衣類、鉛筆、ノート、携帯電話、車・・・これらは、誰かが作っています。また、それらを売っているお店があります。誰かが作ってくれているので、私たちは必要なものをお金で買います。誰かが作ってくれたものを売っているお店があるので買うことができます。このように、私たちの周りには働くところがたくさんあって、それぞれ誰かの役に立っています。「働く」ということは、「自分のために働く」と思いがちですが、「他の人のために働く」「社会の中の一人として働く」という意味もあります。「誰かの役に立つために働く」、この意識が大切です。

自分の仕事が社会の役に立っていること、自分の働きが周りから期待されていることを実感することは、「生きることの喜び」になります。

学校卒業後の働き方



福祉的就労

施設の訓練を通して、就労に必要なスキルを身に付けていきます。

1. 就労移行支援

2年以内に一般企業へ就職することに向けて、訓練をしながら必要な知識や技術の習得、求職活動の支援など、様々なサポートが受けられる福祉サービス

2. 就労継続支援A型

雇用契約を結んで働きながら、能力の向上のために必要な訓練や支援が受けられる福祉サービス

3. 就労継続支援B型

軽作業などをしながら、働くために必要な訓練や支援を受け、次のステップを目指す福祉サービス



一般就労

学校で学んだことや就労体験をもとに会社で働きます。

職種 製造業、サービス業、医療・福祉など

勤務時間 1日4時間から8時間程度の勤務

働く上での主な支援制度

特別支援学校の支援

教員や就労支援員が卒業生の就労先を訪問して相談支援を行います。

障害者就業・生活支援センターの支援

就職後も、職場における心配事や悩み事などについて継続的にフォローするとともに、他の関係機関と連携を図りながら定着に向けた各種支援を行います。

ハローワークの支援

専門の職員・職業相談員が、きめ細かな職業相談、職業紹介、職場適応指導を行います。

障害者職業センターの支援

職業カウンセラーやジョブコーチ（職場適応援助者）が支援や助言を行います。

就職

再チャレンジ利用

一般就労をして、さまざまな理由で退職することになったとしても、また就労訓練からスタートし、再度一般就労にチャレンジすることも可能です